

I

【出題のねらい】

この問題の題材は、イギリスの大学や大学院に在籍する学生たちの、外国語を学ぶ理由や目的、またその利点について書かれた記事である。学部、学科に関係なく、外国語学習は大学における学びにおいて重要であることは言うまでもない。そこで、イギリスの大学や大学院における外国語学習の実情についての英文を読んだ上で、大学で外国語を学ぶことについての考えを表現することができるかどうかを見ることが、全体的なねらいであった。問 1 には下線部が示す内容について説明する問題が 2 題用意されているが、(1) については、外国語学習がすべての学生に「開かれている」ということの意味を理解できているかが問われている。(2) については、外国語学習の効用は外国語運用能力以外にも波及するということが理解できればよい。問 2 (1) の下線部は、外国語習得は就職において有利に働くという旨が理解できればよい。問 2 (2) は後述するとおり、大学での学びは外国語習得なしには成立しないことから、外国語習得の意義や理由、手段、目的や展望についての記述を明瞭かつ説得力をもって行えるかどうかを見ることがねらいであった。

【講評】

問 1. (1)

意味としては、言語学習はすべての学生に「開かれている」ということで、学位取得とは関係なくリモートでも勉強できることや、オーディオ教材使用などすべての人のニーズにあわせて学べることが書けていればよいのだが、プロを目指すのではなく言葉を学ぶことや、言語を学ぶことで視野が広げられること、言語を学ぶことは大学生活の重要な経験であると認識されている、といった誤解答が散見された。

問 1. (2)

概ねよくできていた。コミュニケーションや異文化理解を増進するものであることを、しっかりと理解している答案が多かった。

問 2. (1)

下線部について、50 字以内の日本語で説明する問題であった。追加の言語スキルが将来の職業の成功の可能性にとって助けになることを説明すべきであり、下線部を含むパラグラフの後の 2 つのパラグラフに答えが書かれている。概ねよくできていたようである。しかし、中には下線部をただ訳した答えや、下線部より前のパラグラフの内容をまとめた答えもあった。

問 2. (2)

外国語学習をすることの意義を記述する小論文である。いずれ選択する専攻にかかわらず、大学での学びにおいて、英語という外国語についての知識や技能を深めること抜きに勉学を行うことはできない。したがって、外国語学習の意義について考えておくことは、英文学科への入学を志望する受験生にとっ

ての第一歩といえる重要な事柄だ。

外国語学習の意義について一貫性、論理的思考、表現力を持った記述ができているかどうかを評価の基準とした。記述内容と本文の内容との関連性について問うものではない。自らの体験に基づいた具体性の強い記述でもよいし、一般論に留めた抽象性の高い記述でもよい。

概ねよく記述できている。導入部から結部までの一貫性を意識した記述もあった一方で、一貫性の欠如した記述も見受けられた。具体性や抽象性については不問としたことは前述のとおりだが、具体例を伴った記述には説得力のあるものが多かった一方で、抽象性の高い記述では因果関係が理解しにくいものが多かった。外国語習得との関連性の薄い内容を記述したものもいくつか目に留まった。

II

【出題のねらい】

今までに読んだ、または見たことがある物語、小説、映画の中からもっとも気に入っているものの1つを選び、そのタイトルを書いたうえで、その作品を選んだ理由を書くことが求められる問題である。指示文の内容を理解したうえで、自分の考えについて相手にわかりやすく伝える表現力をみた。取り上げる作品（物語、小説や映画）が外国の作品か日本の作品かは問わないが、大問1にて触れられた外国語学習同様、外国の文学や文化について学ぶことも英文学科において重要な位置を占めていることから、もっとも気に入っている作品について英作で書くことを求めた。

【講評】

評価の基準としては、内容の一貫性、構成力、文法、語彙、綴りなどがあげられる。タイトルを示したうえで、理由を論理的かつ簡潔に述べている秀作がある一方で、作品の要約を長く書いて選んだ理由がはっきりしない解答も散見した。また、問題文の意味が理解できていない解答もあった。適切な文法と語彙の選択により、流れのある読みやすい回答が多く見られたが、文法上の誤りにより意味が異なって伝わってしまうものもあった（bullied/ bullying, moved/ moving など）。